

安曇の風

安曇養護学校だより H30.3.9 (金)

日差しにも春の訪れが感じられる今日この頃、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。学校では一年間のまとめと共に、各部では心のこもった卒業生を送る会が行われています。

さて、本年度の学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。結果をまとめましたので、お知らせします。今回いただいたご意見は、来年度の学校運営に生かしてまいります。

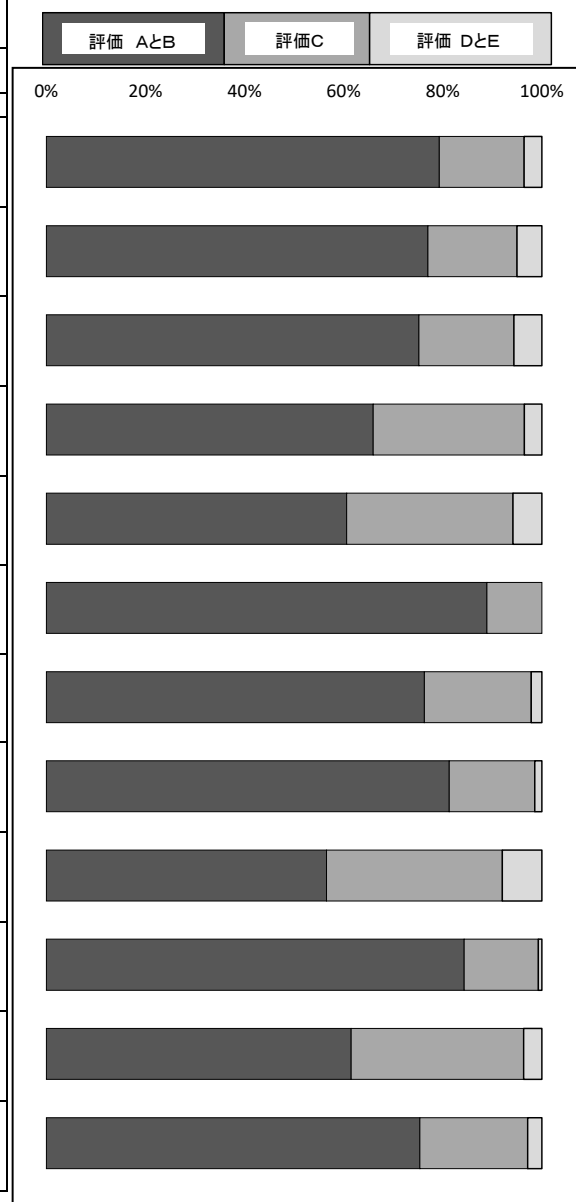
平成29年度 学校評価アンケート（保護者）結果報告

保護者の皆様から回答いただいた学校評価アンケートの集計結果は下記の通りです。

回答 (140人/190人) 回答率73.7%		評価				
重点	重点 I 一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援 II 安心・安全の学校作り III センターの役割を果たす学校 IV 保護者や地域と協力・連携し、共に歩む学校	評価				
		A	B	C	D	E
I	1 お子さんが「行くことを楽しみに待つ学校生活づくり」がされていると思いますか。	55	56	24	5	
	2 児童生徒のよさ（興味関心・個々の長所）を生かす学級作りがされていると思いますか。	47	60	25	7	
	3 個に必要な授業が分かりやすく行われていると思いますか。（教材教具の工夫、指導法の工夫等）	41	65	27	8	
	4 必要な相談・支援が行われていると思いますか。（福祉、支援センターなどとの連携）	33	60	43	5	
	5 進路指導は充実していると思いますか。（就労関係、外部支援者との連携、進級等）	34	49	46	8	
	6 【寄宿舎に入舎している場合のみ、お答えください。】寄宿舎はお子さんに必要な支援を行っていると思いますか。（着替え、食事等の身辺自立）	9	7	2		
II	7 学校は児童生徒の安全が確保されていると思いますか。（各種訓練「引き渡し・避難・防犯」等、学習環境・施設設備、オクレンジャー等による情報伝達、スクールバス安全運行など）	40	66	30	2	1
	8 学校は児童生徒の人権を大切にしていると思いますか。（いじめや体罰の根絶）	46	67	24	2	
III	9 本人保護者の必要に応じて、居住地域との交流及び共同学習が行われていると思いますか。	29	49	49	9	2
IV	10 保護者や本人の願いを取り入れた個別の指導計画が作られていますか。	46	72	21	1	
	11 保護者から寄せられた意見が学校運営に生かされていると思いますか。	22	61	47	5	
	12 本校は学校公開、学校行事などを通して地域に開かれていると思いますか。	46	58	30	4	

評価結果割合の見方

※グラフは各質問の評



※ 裏面もご覧ください。

【アンケート結果の考察】

I 一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援（質問1～6）

・1～5のすべての項目について、「C 普通」以上の評価が合わせて90%を超えている。（ABの合計は項目1～3で75%を超えている。）但し項目4、5は若干少ない傾向であることから「本人保護者が抱える卒業後の進路の不安を解消していくなど、より多様化した個々のニーズに沿って細やかな支援・相談を行っていく。」必要があるといえる。また、寄宿舎については概ね必要な支援が行われているという評価をいただいた。

II 安心・安全の学校づくり（質問7～8）

・「E まったくそう思わない。」の1%の理由として「居住地の学校と交流がなかった。希望しても年一回では少なすぎる。」「小学校までは居住地校でしたが、その後は全く交流はありません。必要ですが、学校側はノータッチだと思います。」というご意見をいただいた。小学部、中学部の居住地校交流については、年度初めに各家庭の希望を確認して行っている。今後は「より詳細に本人、保護者のニーズを確認していくこと、高等部は基本的に「居住地校交流」という形はないため、それに類する居住地の高校生との交流が必要かどうかも含めて、検討していく必要がある。

III センター的作用を果たす学校（質問9）

・「E まったくそう思わない。」の1%の理由として「居住地の学校と交流がなかった。希望しても年一回では少なすぎる。」「小学校までは居住地校でしたが、その後は全く交流はありません。必要ですが、学校側はノータッチだと思います。」というご意見をいただいた。小学部、中学部の居住地校交流については、年度初めに各家庭の希望を確認して行っている。今後は「より詳細に本人、保護者のニーズを確認していくこと、高等部は基本的に「居住地校交流」という形はないため、それに類する居住地の高校生との交流が必要かどうかも含めて、検討していく必要がある。

IV 保護者や地域と協力・連携し、共に歩む学校（質問10～12）

・項目10～12すべて、「ABCの合計が96%以上」という評価をいただいている。今後も保護者や地域との連携をより密にし、共に歩んでいく学校でありたい。

【学校として改善すべき点】

- (1) 指導、支援の一貫性、及び専門性の向上
- (2) 連絡ノート
- (3) あいさつ
- (4) 職員間の関わり、連絡、相談、意思の疎通
- (5) 安全管理の徹底
- (6) 言葉遣い(人権感覚に関わること)

【新年度に向けての方向】

上記の改善点から、より「職員間の連携」「専門性の向上」を図るために、「働き方の見直し」をする必要がある。

～体制面等～

- ① 職員による児童生徒への担当制からチーム支援への(より一層の)転換
- ② 「つける力」を明確にした行事(準備も含めた)の見直し(ex「行事ありき」ではない)
- ③ ベテラン職員から中堅・若手職員への専門性の継承(部内の係には必ず「副」を位置づけ、引き継げるようにしていく。ベテラン職員は部内に於いて「顧問」としての立場で、次期リーダーとしての中堅・若手職員を育てていく。各部内、あるいは学年の運営に関わる部分は、中堅・若手職員が中心となって担当し、ベテラン職員は顧問として必要な指導、助言を行う。)

～仕事内容の効率化～

- ④ 伝えるべき事柄を絞り、より効果的で焦点化した「連絡ノート」(ex「授業中の様子を事細かに記述」から「特に必要な事柄に絞った内容」へ。週予定をA4ノート左側1ページに貼り、右側を保護者の記述欄にする…など。)
- ⑤ 部内の仕事内容、分担の見直し(スクラップ&ビルド、よりスリム化していく。)
- ⑥ お便りはA4表のみとし、次週の予定や連絡事項を中心にした内容とする。(このおたよりの週予定を連絡ノートにも転用する。)
- ⑦ 学期ごとの家庭連絡票を、年2回の「個別の指導計画」の評価に換えていく。

～キャリアアップの面から～

- ⑧ 校内研修、認定講習、センター研修など、各種の研修や講習を通して、より専門性や人権感覚等を高めていく。

以上の「働き方の見直し」を行うことにより、今以上に時間的な余裕を作り出す。作り出した時間を「児童生徒の様子や指導支援の方向についての情報交換を行う。」「より専門性を高めるための研究や研修の時間を確保する。」などに充てていく。専門性の向上により、I～IVの各重点についてより一層の充実を図ることができる。